

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区宇納間170番地		
自己評価作成日	平成22年9月22日	評価結果市町村受理日	平成22年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosisip/infomationPublic.do?JCD=4572100644&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭で生活しているように感じてもらえる様、方言を使って馴染みの関係を作ったり、散歩に出掛け、町の風景を楽しむことができるように努めている。地域へ外出する事で、馴染みの人と出会ったり、ホームへの理解が得られるようになってきている。又、朝・夕のラジオ体操を日課としており、いつも明るく、元気に生活できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流が盛んである。具体的には、散歩を日課として、近くのスーパーに立ち寄り、地域の方と自然な声かけが定着している。また、地域で行われている月1回のサロンにも参加している。さらに、小・中学校の学習発表会に招待されたり、地域の祭りにも出かけている。一方、利用者の知人や子ども達などホームへの来訪者も多く、併設施設である介護老人福祉施設やデイサービスの行事にも参加するなど交流が盛んである。工夫している点として、職員の協力体制がよく、利用者一人ひとりの個別ケアを重視しており、理念に掲げている「一人ひとりを大切に」が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを大切に」を理念に掲げており、職員全員が共有し、一人ひとりのケアを大切にしている。	6か月に1回のカンファレンス時に、利用者一人ひとりの個別ケアのあり方を職員全員で考え、共有化し、日常のケアの中で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や施設内での行事に参加し地域の人と交流している。又、近隣へ外出し声をかけてもらったりと、地域の人とのつながりができている。	毎日のように散歩に出かけ、その際地域の方からの声かけがある。また、地域で行われている月1回のサロンにも参加しており、小・中学校の発表会や地域の祭りにも出かけるなど、日常的な交流が行われている。	ホームの利用者も地域の一員として自治会に加入することにより、より地域との交流が深められる取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段から、地域に外出するなどして認知症の人への理解が得られるよう働きかけを行っている。また、サロンへ参加するなどし、地域の高齢者とふれあう機会を持つようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政や地域の人に参加してもらい、苑での現況報告を行い、意見交換しサービス向上に努めている。今年度より、町の消防担当者の人にも委員になってもらい連携が図れるようにしている。	3か月に1回、運営推進会議が行われ、消防団担当も委員として加わり、避難訓練などの連携が図られてきている。	地域の老人クラブからも委員として加わってもらうことにより、老人クラブとの交流やグループホームの理解を推進していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進委員に選出し、情報交換を行い連携をとっている。又、苑だよりを配布するなどして、積極的に苑の状況等を伝えている。	市町村担当者には、会議に出席してもらうと共に、相談や状況報告を密に行っている。また、あじさい苑だよりを配布し、ホームの状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修で勉強するなどして、理解を深めている。安全面を優先しやむを得ず行う場合には、利用者・家族にその旨、了解を得ている。身体拘束をしないケアに取り組むため、玄関に音のする物を使うなどの工夫はしている。	帰宅願望の利用者が1人おり、入浴時間帯の見守りが行き届かない30分程度だけ玄関の鍵をかけることがあるが、職員間で話し合い、見守りを徹底し鍵をかけない方法が検討され、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から、虐待防止について話し合い、職員は互いの言動について充分注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告等で学ぶ機会を作っている。現在、必要となる利用者はおらず、活用までは至っていないが、必要に応じて、関係機関とも話し合い、利用者、家族へも伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結、解約時は、十分な説明を行った上で、利用者、家族等の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・家族が意見・要望を言える雰囲気づくりを大切にしており、家族からは面会時などに話を聞くように努めている。又、施設の方に苦情箱の設置を行い対応している。	月2～3回の家族来訪時や家族付き添いの病院受診時に家族と話す機会を設けている。また、6か月に1回のカンファレンス時には家族も同席してもらい、意見を聴き、要望を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見に耳を傾け、話し合いをもち運営に反映させている。	月1回の職員全員の研修会において、職員から意見や提案を聴き、ケアに反映させている。また、必要に応じて管理者にも職員の意見を伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの勤務状況等を把握し、職場環境を整備し、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修を段階に応じて受講し、学ぶ機会を持てるようにしている。また、法人全体として、介護福祉士の資格取得に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会等への参加を通して、同業者と交流する機会があり、情報交換を行い、連携してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人と面接し、不安等の解消に努め、安心してサービスが受けられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、出来るだけ家族との面談の機会をつくり、これまでの苦労や悩みを聞き、今困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を十分に聞き、本人と家族の必要としている支援を、法人内の他のサービス担当者とも相談、連携して対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の心身の状況を把握し、出来ること、楽しみごとと一緒に行動などして、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や苑の状況を機会あるごとに報告し、面会や病院受診の依頼をしたり、行事への参加をお願いし、本人と家族の絆を大切にし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブなどで、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。又、面会時は居室でゆっくり過ごしてもらうよう支援している。	出身地区への訪問やドライブ、遠足、日々の散歩などを行い、なじみの関係を継続できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員で何かを楽しむ時間を持ったり、一人ひとりの得意としている事を活かせる場をつくり、利用者同士の関係がよりよく築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養や他施設への入所時には、関係者に本人の状況や、ケアの情報を詳しく伝えるなどしている。また、サービス終了後も、利用者への面会やその後の状況を家族より聞いたりし、経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を良く聞き、希望・意向の把握に努めている。困難な場合には、家族の意向等を踏まえて、職員間で話し合い、より良いケアができるように努めている。	日常的な会話の中から一人ひとりの思いを受け止め、ケアに取り組んでいる。おしゃれがしたい、買い物に行きたい、美味しいものが食べたいなど、それぞれの個性や意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等を、本人、家族等に聞き取ったり、他事業所に情報提供の依頼をするなどして把握に努めている。また、普段の何気ない会話の中からも見つけ出せるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の心身状態等を観察、記録し、現状の把握に努め、職員全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度、計画書の見直しを行い、月1回モニタリングを行っている。見直しの際は、出来るだけ家族に参加してもらい、本人・職員全員で話し合い、より良く暮らせるための計画を作成している。	職員1人につき利用者2~3人の担当制をとっており、毎月担当者の状況をモニタリングし、記録している。その状況を計画作成担当者が全体的に確認しながら、職員全員で話し合い、介護計画が作成されている。	月1回のモニタリングを行った際に、家族への状況報告を行うことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れの中で、ケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し、共有し、より良いケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他部署、他職種とも連携し、家族の状況、その時その時のニーズに応えられるよう協力しあい、行事の協働、外出支援など柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館利用やサロンへの参加をしている。民生委員の訪問や、小・中学生の慰問もあり、安全で楽しみのある暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する、かかりつけ医の受診を定期的に行っている。緊急時の場合も家族協力の下、適切な医療が受けられるよう、支援は出来ている。	利用者の多くの掛かりつけ医は、併設施設の嘱託医でもあり、連携が図られており、家族の協力による受診が行われている。家族対応が厳しい場合は、併設施設利用者の受診に合わせて受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師には、日常的に報告、相談を行っている。又、掛かりつけの病院の看護師にも必要に応じて相談し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の日頃の生活状況や注意点をサマリーにて報告し情報交換している。入院中は、面会に行ったり、家族と連絡を取りながら病院とも連携し、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス時や面会時を利用して、利用者の現状報告を行い、早い段階から話し合いをしている。山間部に位置しているため、緊急時、夜間の終末医療に限界がある。そのことも踏まえて、関係者と連携を図りながら、支援に取り組んでいる。	機会をみて、重度化に向けた話し合いを家族としている。緊急時には、併設施設の看護師の応援体制により対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、利用者の急変や事故発生時に備えて、定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災訓練や施設合同での訓練等で意識を高めている。又、防災無線の設置も行い地域との協力体制が築けている。	毎月避難訓練を行い、夜間帯にも緊急対応訓練等の対策を行っている。また、防災無線が設置されており、情報が入りやすい体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から一人ひとりの人格を尊重し、その人に合わせた、声かけや対応を行っている。	被害妄想や拒否を示す利用者など、一人ひとりの状況を把握し、言葉づかい等に配慮して、プライバシーや個人の尊厳の対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から遠慮なく何でも言いやすい関係作りに努めている。また、普段の会話、表情などから本人の思いや希望をくみ取り、把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはだいたい決まっているが、利用者に対して何がしたいか問いかけ、その日の状況を見て、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や美容院の外出支援等を行い、身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものや味付けに工夫している。簡単な下準備を行うなどして、食事に楽しみが持てるように支援している。	利用者の中で野菜の皮むき、配ぜん・下ぜんなどできることを一緒に行うと共に、畑でとれた野菜や差し入れの食材も生かしつつ、食事に楽しみがもてるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握した上で、食べる量や栄養バランス、水分量が確保できるよう支援している。状態によっては、必要に応じて、同法人内の栄養士に相談し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて歯磨きを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、声かけ誘導を行い、トイレでの排泄が自立できるように支援している。	オムツ使用者は夜間だけの方1名であり、また、ポータブルトイレを夜間だけ利用する方もおり、それぞれに応じて自立した排泄ケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、適度な運動や水分摂取等の工夫をし、個々に応じて自然排便ができるよう働きかけている。スムーズな排便につながった利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の中で、ゆったりした時間を入浴時間にしている。体調や本人の希望も聞きながら、リラックスして入浴が楽しめるよう支援している。風呂嫌いな利用者もおり、声かけの工夫などを試みている。	毎日午後に入浴時間を設け、1日3~4人がゆったりした入浴ができるよう支援している。季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯を設け、入浴嫌いな方にも声かけの工夫を行い促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに配慮し、日中の活動を充実させ、休息や安眠の支援をしている。しかし、認知症状が激しく現れる利用者もおり、全員の安眠には至っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の内容について、ファイルにまとめ理解し、服薬の支援に努めている。又、服薬変更による状態変化時は、速やかに病院へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして家事(洗濯物たたみや掃除他)や花植え、草取り等の作業を一緒に行ったりし役割を持てるよう支援している。又、散歩等の屋外での活動で気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は、屋外散歩を日課としている。時には、近くの店で買い物、ドライブも楽しんでいる。又、家族とも協力しながら、お墓参りや懐かしい場所へも出かけられるよう支援している。	散歩を日課とし、近くのスーパーに寄ったり、ホーム周辺を休憩しながら自然の風景を楽しんでいる。また、ドライブに出かけるなど日常的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりがお金を所持する事は、混乱や利用者間のトラブルにつながる為、預かりをしている。近くのお店へ買い物に行く時は、一人ひとりの力に応じて財布を持ったり、好きな物が買える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事はないが、希望があれば電話の取り次ぎをしている。また、利用者に届いたハガキ等は本人へ渡し、一人ひとりの力に応じて一緒に読む等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節飾りで季節感を取り入れて落ち着いた空間づくりを取り入れている。又、開放的なサンルームからは目の前の田園風景を眺めることができ、季節の移ろいを感じる事ができている。	談話室のカーテンを開け、外の風景が見られるように工夫したり、小学生からのお手紙などを壁にはったり、利用者の創作物を展示するなどの工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを複数配置しており、時には利用者全員で過ごしたり、時には独りになれるような居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している家具類や家族の写真等を貼り、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の状況に応じて、ベッドの置き場所を工夫している。また、テレビや鏡、タンス、写真など利用者の意向に沿った居室空間を作り、居心地のよい居室への配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を活かして、居室の入り口やトイレ、浴室等に大きめの目印をする等して工夫し、安全にできるだけ自立した生活が送れる様にしている。		